

にいがた労福協

ライフサポートセンター

No.56 2024年1月15日発行

一般社団法人 新潟県労働者福祉協議会

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2

Tel 025-281-0890 Fax 025-281-0891

E-mail ni-rfk@bz04.plala.or.jp

URL <http://www.niigataken-rofukukyo.com/>

発行責任者 石本伸二

2024年 明けましておめでとうございます

「福祉はひとつ」

～すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、
連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくります～

新潟県労福協 新春の集い



辰
2024

齋藤副理事長による乾杯

理事長	理事	専務理事	副理事長	副理事長	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事
牧野 茂夫	齋藤 敏明	石本 伸二	小野塚 豊	齋藤 敏明	飛田 博之	山崎 雅彦	藤田 隆則	小林 俊夫	鶴巻 洋介	古市 健生	眞田 守	中川 亨	小林 佳代	川原 隆哲	高見 優	山際 輝久	矢島 良彦	笹井 智規	遠藤 大介	長谷川建雄	森山 真吾	江口 勉	佐藤 淳	渡辺 薫
労福協	労働金庫	労福協	こくみん共済	労働金庫	U・A・セン	電機連合	情報労連	連合新潟	労働金庫	こくみん共済	退職者連合	ろうきん財団	県生協連	ワークスコープ	さくえあい生協	新潟地区	長岡地区	柏崎地区	連合新潟	労働金庫	こくみん共済	労働金庫	労福協	労福協

2024年、今年も
よろしく願います。

「福祉はひとつ」を原点に、連帯・協同で つくる安心・共生の福祉社会をめざして



新潟県労福協

理事長 牧野 茂夫

あけましておめでとうございます。

新潟県労福協は、12会員団体、県内10カ所の地区労福協とともに、労働団体・福祉事業団体・NPO・市民活動団体等と連携をはかり、「貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働き暮らせる持続可能な社会」をめざしています。主要事業であるライフサポートセンターを柱に、生活困窮者自立支援事業、行政をはじめ、さまざまな団体とのネットワークを強化しつつ、生活上の悩みや課題を抱えた人たちに対する、支援事業を一体となつてすすめています。

労福協2030年ビジョンは、「経済成長は人間の幸せのためにあり、手

段であつて目的ではない」ことを改めて認識し、経済・社会・環境の調和やそのための諸課題の解決に向けて統合的なアプローチをめざすSDGsの達成に向けて、私たちも役割の一端を担い行動しています。

また、労働者福祉運動を継承していくための、新しい担い手を育てていく啓発・教育活動も極めて重要です。このため、組織内の人材育成をはじめ、学校教育における労働・金融・消費者教育なども含め、各団体・組織の人材・教材等の資源も相互に活用しつつ、共同の取組みを広げます。

今後とも労福協運動は、政策や制度の改善を求める社会運動と、労働者自主福祉運動を車の両輪として、「福祉はひとつ」の理念の下、「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・共同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現をはかります。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



労働者福祉中央協議会

会長 芳野 友子

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は国民生活を一変させ、格差や貧困、社会の分断が深刻化し、コロナ禍以前から抱えていた日本社会の脆弱性が次々と浮き彫りになりました。感染症法上の位置付けが5類に移行され社会経済活動の回復は進みつつありますが、ただ単にコロナ前の状態に戻すのではなく、更により良い社会とすべく、公的セーフティネットの強化を継続して求めていく必要があります。中央労福協では、コロナ禍で生活に困難を抱える人たちやその相談・支援活動を応援するための「ろうふくエール基金」を継続してこられた事は、ひとえに皆さまのご協力があったことです。心より感謝申し上げます。

さて、中央労福協では「高等教育費

2024年 頭挨拶

の漸進的無償化と負担軽減」に向けて、この間、取り組みを進めてきましたが、今後、国民的合意形成をどのようににかるのか、もう一段レベルアップした運動の展開が求められています。また、地域共生社会を構築する取り組みとして、地方労福協を中心として取り組まれております、ライフサポートセンターにおける活動の重要性は、これまでと変わることはありません。

しかし、昨今の物価高の影響は生活者を直撃しており、子ども食堂に代表されるように、地域に寄り添った直接的な支援を行う活動が今後ますます必要とされます。労働者福祉運動と共助の輪の拡大に向け、労働団体・事業団体・地方労福協が、それぞれの立場で取り組んでいくことが求められます。

中央労福協は引き続き、その結節点の役割を果たすとともに、社会的連帯経済（SSE）の担い手として、NPOや市民団体、社会的企業とのつながりを深めていきます。

労福協の理念にあります、すべての働く人の幸せと豊かさをめざした、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会に向け、これまで以上に皆さまの力をお寄せいただくことをお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

2024年新潟県労福協

新春の集い

2024年1月5日(金) ANAクラウンプラザホテル新潟において、新潟県労福協主催の「2024年新潟県労福協新春の集い」が各界から約200名の参加者のもと、開催された。第1部では、昨年に引き続きヴァイオリン、チェロ、アコーディオン奏者のグループ「トロントリオ」のミニコンサートを開催した。

その後、第2部の交流懇親会が開催された。冒頭、今回の能登半島地震で犠牲となられた方への哀悼の意を表し、黙祷が行われた。牧野理事長の主催者あいさつの後、小野塚副理事長の乾杯で新春の集いがスタートした。

災害対応で急遽、欠席となった花角新潟県知事からは「労働者の生活の安定と経済的、社会的地位の向上にご尽力いただいていることに敬意を表すとともに、パーソナルサポートセンターによる寄り添い支援やフードバンク活動などを通じ、生活に困っている方々を力強く支えていただいたことに、改めて感謝を申し上げます。」とのメッセージが届いた。

昨年までは、仕切り板を設置し、原則として、席を立たない交流会としてきたが、今年は久しぶりに制限なしと

なり、会話も弾み賑やかな交流会となった。

最後は連合新潟小林会長から「連合は働く者のそばに存在として活動を進めて行きます。今後、被災地へのボランティアの派遣を検討しているのので、ご協力をお願いします。」との締めあいさつがあり、盛会のうちに終了した。

当日会場にて能登半島地震への義援金をお願いしたところ、110、435円の義援金が集まった。

牧野理事長



黙祷



トロントリオ



連合新潟小林会長



会場風景

花角県知事要請行動

「2024年度（令和6年度）労働者福祉に

関する要請書」に基づく申し入れ

11月1日（水）県労福協は、花角知事を訪問し労働者福祉に関する要請書を提出した。

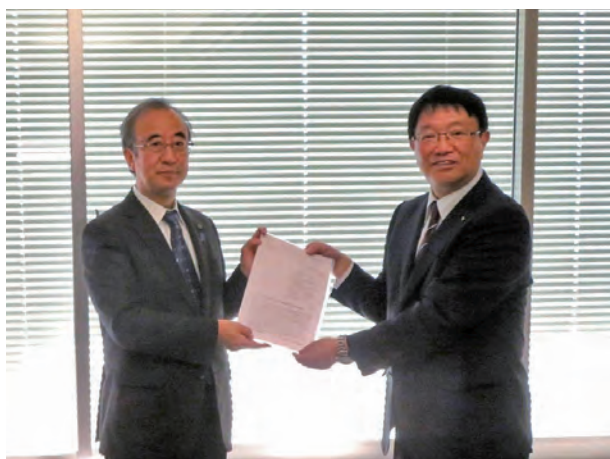
要請内容は、①東日本大震災の被災者・避難者支援および防災・減災対策の強化について、②格差・貧困の是正、セーフティネットの強化について、③奨学金制度の拡充・改善と教育費の負担軽減について、④フードバンク活動の促進について、⑤持続可能な地域

公共交通機関の確保について、⑥労働者協同組合法の施行の運用について、⑦「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行に伴う対応についての7項目であった。

花角知事からは、「新潟地震から60年、中越地震から20年の節目の年。教訓を次に伝えるために会議体を立ち上げる予定。物価高は国も県も認識をしている。6月の補正予算で10億円を積んで、各自治体の独自の支援策などの応援をしてきた。要請をしっかりと受け止め、どう反映できるか検討をした。」との回答があった。

―出席者―

〔新潟県〕知事・産業労働副部長・しごと定住促進課長・福祉保健総務課長・障害福祉課長・子ども家庭課長・高等学校教育課課長補佐
〔労福協〕牧野理事長・齋藤副理事長・小野塚副理事長・石本専務理事



第5回

地区労福協事務局長会議

10月18日（水）第5回地区労福協事務局長会議を勤労福祉会館で開催した。

会議では、はじめに新潟県ライフサポートセンター事業の取り組み状況の報告が行われた。その後、各地区の上半期の活動計画に対する進捗状況および下半期の活動予定についての意見交換を行った。

各地区とも参加者や地域のためになる内容をめざして、創意工夫を凝らしたライフ＆ワークセミナーを予定しており、地域のNPOや市民団体との連携も意識しての取り組みが報告された。

地区労福協による地域に根差した活動を今後も強化していくことを参加者全員で確認した。



連合新潟第33回定期大会

仲間の輪を広げ、ともに進もう！

11月8日（水）連合新潟は第33回定期大会を新潟東映ホテルにおいて開催し、代議員、特別代議員など約200名が出席した。

大会では、組織の拡大や賃上げを柱とした運動方針、財政、役員の選出など5つの議案がすべて承認された。

牧野会長は「4年余りのウイルス禍は格差を広げ、労働組合運動にも大き

な影響を及ぼした。今こそ改めて『運動への参加』を掲げよう」と組合員の連合運動への結集を呼びかけた。6年間に渡り、会長を務められた牧野会長は、今大会で退任となった。

新たに新会長として小林俊夫氏（電機連合）が選出され「県内で働くみんなのために必ずそばにいる存在でありたい」と決意を表明した。その他に事



務局長に桑原典子氏（U Aゼンセン）、
副事務局長に刀根正人氏（自治労）、
遠藤大介氏（電力総連） 川上敦之氏
（全労金）が選出された。



大会は、牧野大会実行委員長（連合新潟会長）の主催者挨拶に続き、来賓として、新潟県しごと定住促進課働き

11月3日（金）、秋晴れの中で連合新潟・労福協主催の第33回新潟県勤労者駅伝大会が、新潟市デンカビッグスワンスタジアムをスタート・フィニッシュとし新潟県スポーツ公園内コース（6区間18・4km）で開催された。
参加チームは54チーム（選手・スタッフ総員499名）で、前年より21チーム増えてにぎやかな大会となり、当日は、県下各地から集まった参加者による日頃、鍛えた健脚を競う熱いレースが繰り広げられた。

第33回新潟県勤労者駅伝大会 54チーム 総勢499名が参加

方改革推進相田室長の祝辞の後、チーム名「GRC」代表のお二人が力強く選手宣誓を行った。

今大会も前回に続き、全国実業団対抗駅伝大会の出場経験もある、走る大工集団、重川材木店陸上部がゲスト参戦していただき、トップのタイムをたたき出し、実業団の実力を目の当たりにすることとなった。

一本の「タスキ」をつなぐ駅伝、タスキには目に見えない「絆」や「支え合い」が込められ、まさに働く者の団結と連帯を確認することができた。

これからもアスリートから初心者まで、誰もが自由に気軽に参加しやすい大会をめざし「タスキ」をつないでいく。

競技結果は以下のとおり

〈総合順位〉

- | | | |
|-----|-------------------|----------------|
| 1 位 | チームJ P 労組 A | 1 時間 2 分 22 秒 |
| 2 位 | T F D | 1 時間 07 分 03 秒 |
| 3 位 | 柏崎市職労 S K K G K S | 1 時間 11 分 13 秒 |

〈男女混合順位〉

- | | | |
|-----|--------------|----------------|
| 1 位 | 津南町役場 U — 23 | 1 時間 13 分 15 秒 |
|-----|--------------|----------------|



- | | | |
|-----|--------------|----------------|
| 2 位 | わくわくワークにいがた | 1 時間 17 分 48 秒 |
| 3 位 | にこにこランニングクラブ | 1 時間 17 分 57 秒 |



中央労福協 第66回定期大会

11月22日（水）、中央労福協第66回定期総会が東京都・連合会館にて開催された。

総会は206名の代議員（会場出席85名、Web出席72名、委任49名）が出席した。

芳野友子会長より「昨今の物価高の影響は生活者を直撃しており、こども食堂に代表されるように、地域に寄り添った直接的な支援を行うことが今後ますます必要とされる。共助の輪の拡大に向け、それぞれの立場で取り組み

を進めていただきたい。

中央労福協は、行政やこれまで接点のなかったNPO、若者をはじめとする多様な世代などとの連携・協働に向けて、知恵を絞って行きたい。」とのあいさつがあった。

その後、活動報告、活動方針などのすべての議案が承認され、芳野会長をはじめ11名の役員が再任されるとともに、3名の新役員が就任し、総会を終了した。

第10回

生活困窮者自立支援 全国研究交流大会

11月11日（土）12日（日）北海道・札幌市において第10回生活困窮者自立支援全国研究交流大会が開催された。

生活困窮者自立支援法が制定されてから10年を迎え、「人と人との向き合う、いのち・くらし・せいかつ——なんとかなる——楽しみながら地域づくり——」を大会テーマに4年越しに北海道で対面での開催となった。10回目の節目となった大会には、会場参加とオンラインも含め1500名近くの参加があり、11日の全体会、12日の8つの分科会では、会場の熱気がオンライン参

謹賀新年



7223Z141

謹んで新春をお祝い申し上げます
旧年中は格別のご厚情を賜り誠にありがとうございました
本年も変わらずご愛顧を賜われますよう
よろしくお願い申し上げます

こくみん共済
全国労働者共済生活協同組合連合会 **coop**

新潟推進本部
（新潟県総合生活協同組合）



12月7日（木）新潟東映ホテルにおいて「にいがたワーク&ライフフォーラム」総括集会が52名の参加者のもと、開催された。

牧野理事長の主催者あいさつの後、「にいがたワーク&ライフフォーラムが目指すもの」と題してスタート時に

にいがたワーク&ライフフォーラム 総括集会



加者にも伝わるような熱い議論が交わされた。参加者からは「久しぶりに対面で交流ができて嬉しかった」「明日からの元気をもらえた」等の感想が出された。



専務理事を務めていた山田新潟県退職者連合会長から開催に至った経緯やこの間の取り組みが説明された。

その後、過去9回のフォーラムをスライドで振り返り、参加者全員を少数のグループに分けてこの間のフォーラムに対する思いや、今後の方向性について討議を行った。

まとめとして新潟ろうきん福祉財団の中川専務理事から「今後は各地区労福協が活動の中心となるが、NPOの皆さんと連携を強め、地域に根差した活動を進めていこう」との提起があり、参加者の意思結集が図られた。



新春のお慶びを申し上げます
本年も変わらぬご愛顧を
賜りますようお願い申し上げます
二〇二四年元旦



ろうきん
イメージモデル
高梨 臨

謹賀 新年

新潟ろうきん

新潟ろうきん

検索



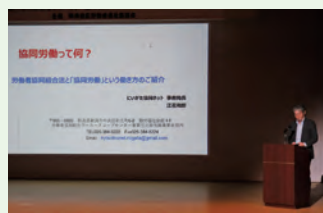
地区労福協からの たより



県央地区

「県央地区労福協」は、新潟県労福協が指定管理者として管理運営をする三条市勤労青少年ホーム（ソレイユ三条）内に事務所を置いて活動しており、毎年行われる「ソレイユ祭」では、労福協も参加し、「フードドライブ」を実施しており、地元の「フードバンクさんじょう」へ届けています。

11月11日には「県央ワーク&ライフセミナー」（協同労働で仕事と地域をつくる）をテーマに「医師中村哲の仕事・働くということ」の映画と「江花和郎氏」（にいがた協同ネット事務局長）の講演を行いました。



た。一般市民45名を含め100名ほどの参加があり、「中村哲氏の活動に感銘を受けた」「協同労働という働き方を始めて知り、興味を持った」「労福協の地域での活動に期待したい」などの声がありました。

新春の1月11日には恒例の「新春賀詞交歓会」を予定しております。

これからの労福協の構成団体はもちろん、各自治体や社会福祉協議会、NPO団体、子ども食堂など地域と連携し、会員交流、地域貢献に努めて参ります。

佐渡地区

2023年11月30日佐渡地区ワーク&ライフセミナー「佐渡市のごみ処理の現状について」を開催しました。労働組合、NPO団体、一般の方など33人が参加し、佐渡市唯一のごみ焼却施設の設備や規模、現在の稼働状況などを佐渡グリーンパーク総括責任者の榎屋様よりお話しいただきました。

佐渡地区労福協では以前の同セ

ナーで「地球環境の現状」を聞き、私たちに出来ることから行動しよう、この2年間「海岸清掃」活動を行ってきました。毎回たくさんのごみを拾い集めてきたなかで、ある時、参加者から「このごみはどっちに分けるの?」と聞かれ、戸惑うこともあり、そうであれば専門家に聞いてみようという開催に至りました。

講演の冒頭講師から「私たちは電気や水道と同じインフラの一つとして止めてはいけない施設です。」そのため施設では施設管理や職員の健康管理を徹底されているそうです。私たちの生活では、収集場所にごみを出せば処分されることが当然と思っている裏では、携わるみなさんのご苦労があつて成り立っていることを改めて感じました。続いて施設の説明では「燃やせるごみ」の焼却温度や216本ものフィルターを通して有害ガスを出さない構造や残った「灰」を昨年度末までは島内処分でしたが、現在は島外施設に送りだしていること。「資源ごみ」は、大半を人の「目」や「手」で選別していることの説明がありました。今時機械じゃないのに驚きましたが理由を聞いて納得でした。「空き缶・ビン」に誤入されるスプレー缶などの危険物、「廃プラスチック」では食べかすの付いた弁当箱などの汚れたプラ



スチックなどないかは人でなければできないそうです。この選別作業では特に夏場、空き缶のアルコール臭、食べかすなどの悪臭やカビで体調を崩す職員も出て苦労しているようです。「しっかり洗って、とは言いません。空き缶や空き弁当箱など、一、二回、水ですぐだけで助かります。」のお話しに、一人一人が気を付けてごみを出すことで、職員の安全な作業環境を作れることを確認しました。他県では焼却炉緊急停止が生じて1ヵ月余り他の市に処分依頼され何億円も費用がかかったニュースがありました。私たちが日ごろから「分別のルール」を守ることで地域の環境や処分いただく職員の健康を守れること。施設維持につながることをみんなで確認しました。次の海岸清掃時には「施設の苦労や「ゴミ分別ルール」を伝え、きれいな島」と言われ続けられるよう活動したいと思う講演会でした。

🌸🌸 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。🌸🌸

全国延べ
1,700校で開催！／ **子どもに聞かせたい講演会として口コミ・リピート多数！**

高橋 なんぐ

お笑い授業 特別編

～いのちの大切さを学ぶ～

県内3会場で開催！ — 各会場定員150名 —

長岡会場	上越会場	新潟会場
ハイブ長岡 特別会議室「けやき」	上越文化会館 中ホール	新潟県民会館 小ホール
2024年2月10日(土)	2024年3月16日(土)	2024年3月30日(土)
開場:13時00分 開演:13時30分(15時終了予定)	開場:13時00分 開演:13時30分(15時終了予定)	開場:13時00分 開演:13時30分(15時終了予定)

お申込みは「新潟ろうきん夢咲Club」
公式ホームページの
「イベント申込」フォームから！



新潟ろうきん夢咲Club

申込締切 **2024年1月20日(土)**

※応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。
※「申込受付結果通知」は、2024年2月初旬までにお申込者(会員様)に発送いたします。

主催:新潟ろうきん夢咲Club 後援:新潟ろうきんシニア倶楽部、新潟県労働金庫 〈お問い合わせ〉TEL.025-201-8765

新潟ろうきん夢咲Club

参加無料
親子で参加OK!



<新潟ろうきん福祉財団では…>

**「ワーク&ライフセミナー」で、
各地域の活動を支援しています！**

- ◆「ワーク&ライフフォーラム」は、2022年度で終了としましたが、引き続き、地域の実態に照らした多様なセミナー開催を応援しています！
- ◆各地区労福協への支援
 - <下越、新潟、県央、長岡、柏崎、上越、佐渡>・・・上限50万円
 - <小千谷、十日町、糸魚川>・・・・・・・・・・・・・上限20万円
 ※上限内であれば複数回開催 OK！ただし飲食費・人件費は不可。

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2 勤労福祉会館4階

公益財団法人 新潟ろうきん福祉財団

URL <https://.zaidan-hukushi.or.jp>

調査・研究事業報告

連載／第4回

近未来の労働環境の変容とその課題が

―持続可能な福祉社会と高齢者雇用―

公益社団法人新潟県自治研究センター

政権の支持率が統落し、政治への疑惑と不信が高まるなかでの年明けとなった。2022年7月の参議院議員選挙後には、「黄金の3年間」に入り、「政策が実行しやすくなる」といわれていたことが信じられない情勢である。この間、国・地方ともに最大の課題のひとつとされてきた、少子・高齢、人口減少社会への対応についてはどうなっているだろうか。去る12月22日に国立社会保障・人口問題研究所が発表した2050年までの地域別将来推計では、東京都を除く46道府県で減少し、新潟県では30・7%減という厳しい数字が示された。東京一極集中と人口減少の危機への対応として、2014年始まった「地方創生」政策の「現実」であるともいえる。

そこで、今回はこの問題に関連した論稿である、長沢正一氏の「定年延長・高齢雇用と持続可能な社会の確立―働くものや高齢者の働き方・これからの役割を検討―」を紹介していきたい。

【人口減少と社会保障の観点から】

まず、1997年をピークに実質減少を続ける賃金と一人当たりGDPの低さ、そして人口減少をトータルとして捉え、過疎化や集落の維持管理などの地域的課題とともに、働き手、人手不足が深刻となる点を長沢氏は最初に指摘する。

そして、それが特に大きな影響を及ぼすものとして、負担と給付の関係にある社会保障制度を挙げ、「近未来の働き方を考えるとき、少子高齢化と社会保障の現状を無視して語ることができない」と強調している。その際、「日本が持続的に成長を維持するには、生産性の向上は不可欠」として、雇用の維持や賃金等々「生産性向上に必要な課題は労使の課題でもある」との視点も提示し、労働組合の果たす役割への期待が述べられている。

長沢氏の指摘は、1995年に当時の日経連が出した報告書『新時代の「日本の経営」』が、その後の経済界

の人員費削減と非正規労働者の増大をもたらしした歴史なども踏まえたものになっており、今後の「多様な働き方」を考えていく際にも、たしかに重要になってくるはずである。連合総研が実施した『経営に関する労使協議についてのアンケート調査』において、従業員300人未満の企業のうち41・5%で労使協議機関がないというデータを示し、「健全な労使関係の構築」の必要性を訴えている。

【望まれる高齢者雇用のあり方とは】

もうひとつは、世界でもトップレベルにある日本の長寿社会の現状から、高齢者雇用のあり方と「働く者の安心社会」をどのように考えるかという論点である。

現在の65歳定年制をベースにすれば、2040年には女性で25年、男性で18年もの時間を定年後に過ごすことになるという。長沢氏は、社会保障制度のしくみからも、「支える側と支えられる側を年齢によって固定的に考えるのではなく」、「支える側を増やす政策をどう作るか、そのための近未来の働き方として検討する必要がある」とし、その観点から何が求められるのかを述べている。

高齢者雇用・定年延長の現状をみると、60歳前の労働者とそれ以降の労働者との間に不合理な賃金格差や待遇差などがあることから、是正すべき点がある

数多く挙げられている。

「働くことができる条件や環境整備」と「生きがい・やりがいを持つて社会や地域で働くことで貢献できる」ような施策、「身体・健康状態や生活に配慮」する働き方などが当然求められてくるのである。それを長沢氏は「押し付けではない最適な働き方」と表現しており、これは高齢者だけでなくすべての働く人々に共通する課題ともいえよう。

なお、現在、今年度の研究報告作成の最終段階になっているが、テーマとなっているのは、超高齢社会と人口減少社会のなかで、持続可能な働き方を考えるというものである。今回紹介した論文は、今年度の報告書への問題提起ともなっている。

長沢氏は、「安定した持続可能な社会は、すべての人への雇用機会の保障、貧困の解消や格差是正を通じ、『働くことを軸とする安心社会』をつくることだ」と断言する。これは、連合が掲げる「めざすべき社会像」である。

今年度も貴重な紙面を頂戴し、報告書の内容紹介の機会を与えていただいたことに感謝を申し上げるとともに、引き続きのご指導ご協力をお願いして連載のむすびとしたい。

(文責・新潟県自治研究センター

齋藤 喜和)

co-op

コープデリにいがた

「あなたらしさ」が選べる生協、 コープデリです。

コープデリは、関東・信越1都7県で335万以上の世帯にご登録いただいている、日本最大の生協です。
たくさんの宅配サービスや生協があるなかで支持されている理由はきっと、それぞれの“ぴったり”が見つかるから。
原料へのこだわり、価格帯、家族の人数、etc… どんなニーズもおまかせください。

コープデリなら、つかうほどじぶんらしくなれるあれこれが
選べる、見つかる。



コープデリが大切にしている 6 つのこと



豊かで楽しい
食卓へ。

ふだんのくらしに必要な
商品を提供し、
毎日のくらしに貢献します。



安心して
家族へ。

提供する全ての食品の
安全性の確保に
取り組みます。



声を
かたちに。

組合員さんの声を
大切にしたいコープ商品を
開発・提供します。



つながり、
育む。

生産者と組合員さんを
つなぐ「産直」に
取り組みます。



「食べる」を
伝える。

食育「たべる、たいせつ」を
通じて食による健康な暮らしを
提案していきます。



未来に
つなげる。

環境にやさしい
事業とくらしを目指します。

ご加入手続きは
簡単！

今すぐ！ Webでお申し込み

コープデリ 加入 検索



こちらからも
アクセスできます

STOP / 雇用不安！

みんなの力で職場を改善しませんか
労働相談ホットライン

フリーダイヤル いこうよ れんごうに
0120-154-052

相談 無料 秘密 厳守 携帯スマホ OK

これって
当たり前？



それって
おかしく
ない？

Action!
36

パワハラ・ 嫌がらせ

ささいなミスで大勢の前で
怒鳴られる。「バカ」など、
人格を否定する発言に
傷ついている。

解雇・雇止め

1年ごとの契約更新で
4年間働いていたが、
突然
「次の契約更新はない」
と告げられた。

契約内容と 違う

契約内容にない仕事や
研修参加を求められる。
応じなくては
いけないの？

正社員との 待遇差

仕事内容が
正社員と同じなのに
時給が低い。

シフトの削減

週5日のシフト契約
なのに、会社から
「今は週1日ね」
と言われた。
これでは生活できない。

連合全国
一斉集中

労働相談ホットライン

2024年2月6日（火）～7日（水）9:00～19:00

※通常、フリーダイヤルは連合労働相談センターにつながりますが、
この期間は連合新潟で相談を受け付けます

LINEで相談！



期間限定

2月6日（火）
～7日（水）
10:00～15:00
（最終受付14:30）

オンライン

（Zoom）
組合づくり相談
2月5日（月）～10日（金）
詳細は連合へ

労働相談
チャットボット
「ゆにぽ」



フリーランス
課題解決サイト
「Wor-Q」



日本労働組合総連合会新潟県連合会（連合新潟）

今後の日程	
1月	5日（金）新潟県労福協新春の集い （ANAクラウンプラザホテル）
	9日（火）上越地区労福協新春交歓会 （上越市ホテルハイマート）
	11日（木）県央地区労福協新春賀詞交換会 （三条市ジオ・ワールドビップ）
	12日（金）糸魚川地区労福協新春交歓会 （糸魚川市ヒスイ王国館） 自治労新潟県本部新春団結旗開き （新潟東映ホテル） JP労組新潟連絡協議会新春の集い （万代シルバーホテル）
	14日（日）民団新潟県本部新春の集い （新潟東映ホテル）
	16日（火）中央労福協第39回Web学習会 （講師：芳野友子連合会長）
	20日（土）全港湾新潟支部新年旗開き （ANAクラウンプラザホテル） JP労組新潟支部旗開き （新潟東映ホテル）
	25日（木）新潟地区労福協新春の集い （新潟東映ホテル） 新潟市PS支援調整会議（勤労福祉会館）
	26日（金）柏崎地区労福協新春の集い （柏崎市ザ・シャンカーラ）
2月	1日（木）中央労福協第1回生活・就労支援連絡会議
	8日（木）消費生活ネットワーク第6回理事会
	15日（木）糸魚川地区ワーク&ライフセミナー
	20日（火）ながおかワーク&ライフセミナー （長岡市立劇場大会議室）
	22日（木）ながおかワーク&ライフセミナー （アオーレ長岡Aホール）
	24日（土）ながおかワーク&ライフセミナー （ミライエ長岡ミライエステップ）
	26日（月）ながおかワーク&ライフセミナー （まちなかキャンパス301教室）
	28日（水）地方労福協会議 （東京都千代田区・連合会館）
3月	29日（木）新潟市勤労者サービスセンター理事会 （イタリア軒）
	2日（土）ながおかワーク&ライフセミナー （ハイブ長岡会議室DE）
	3日（日）奨学生の成果報告会、奨学金無料相談会 （新潟ユニゾンプラザ）
	15日（金）県労福協第146回理事会 （勤労福祉会館）
	21日（木）東部ブロック第242回幹事会 （長野県・長野市）

編集後記

❖ 私が労福協に来て早くも半年がたった。様々な会議やイベント、交流会などに参加をさせてもらった。還暦を過ぎていてもいかに知らないことが多いことか。まさに未知との遭遇であり、目から鱗が落ちまくっている。

❖ 札幌で開催された生活困窮者自立支援全国交流大会では、貧困や困窮、孤立に苦しむ人を支援するための真剣な討論の場に参加できた。相談業務や伴走支援は大変な仕事だが、参加者の前向きな姿勢に心が震えた。

❖ 中央労福協主催の社会的連帯経済のWEBによる学習会もためになる。貧困の拡大、環境破壊など利益優先の市場経済の限界が見えてきている。SDGsも2030年までに達成すべき目標なのに、実態は後退を繰り返して、このままでは、私たちの生存が脅かされるという。競争原理や利潤追求とは別の原理による経済・社会が必要となっている。そこで注目されているのが社会的連帯経済である。

❖ では、その新しい経済・社会を作るのは誰か。やはり労働組合が中心になるしかないと思う。ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）をめざすということは、新しい社会をつくることにつながるはずだ。どうか自分のことだけではなく、他の人のことや社会のことについて思いを馳せてもらいたい。例えば、買い物をするとき、安ければいいということではなく、その商品が作られるまでにはどんな物語（ストーリー）があったのかを思い浮かべるのも良い。環境への配慮がされている。地産地消で安心できる。従業員は幸せに働いている。利益優先ではなく社会貢献も考えている企業である。そんな企業の商品を少し高くても買うことが地域や社会を変えていくことにつながると思う。

❖ 困っている人には手を差し伸べ、おかしいことはしっかりと是正をさせていく。そういう意識をみんなで作れば、社会変革は可能はずだ。

❖ 労福協も地域の課題をしっかりとらえていく目を持ちながら、様々なNPO団体や市民団体のみなさんとも連携して、課題の解決に取り組み、社会的連帯経済をめざしたい。

❖ 今年こそ争いごとがなくなり、笑顔があふれる素晴らしい一年になりますように。
（新光町の疾風怒涛）